

昭和7年(1932)に発足した大正区は、周りを海と川に囲まれた水運豊かな島である。かつては、大阪を「東洋のマンチエスター」という名で知らしめた大阪紡績会社をはじめ、名だたる自動車工場に造船所、貯木場に鉄鋼所が立ち並び「ものづくり」の最先端のまちだった。現在もその伝統や誇りを受け継いだ企業が、ものづくりに励む現場に潜入してみよう。

※工場見学ご希望の方は、事前に大正区役所(06-6543-9944)へご確認ください。

抵抗器



急勾配の坂を走る電車で、大電力が流れる電力会社用など、用途によって抵抗器の形状は色々。

手作りの抵抗器が、新幹線を走らせる。

●大正区鶴町 2-5-16
☎06-6555-1701
<http://www.suzuki-gokin.co.jp>

1 鈴木合金

大正6年(1917)に創業し、主に車両用・電力用・一般産業用の抵抗器を設計から製作まで手がける専門メーカーとして、もうすぐ100周年を迎える鈴木合金。新幹線を始めとする鉄道車両抵抗器では、国内有数のシェアを誇る。発電所や変電所で使われる電力用抵抗器や、最近では海外で活躍する超大型ダンプカー(積載質量300トン)に搭載される抵抗器の開発や生産にも力を入れる。「一番の強みは、オーダーメイドで必要とされる抵抗器をスピーディーに提供できる設計や生産技術を持っていること」と取締役の坂口員平さん。その作業風景をのぞけば、キュービクルを作る钣金から様々な抵抗体を加工している職場があり、中でも鋳物タイプの抵抗体は180度以上ねじっても折れないほどの高い強度。長年の製造経験で培ったノウハウが活かされている。

2 港湾局 鶴町機械工場

「港」の番人として、海の安全に今日も目を光らせている大阪市港湾局。明治30年(1897)に始まった大阪港築港事業に伴い、明治32年に創設され、今年で115年の節目を迎える。敷地には7つの工場と、全長36メートルの船が入るドックと上桟台。普段は、大阪市が保有する船舶や港湾機械設備などのメンテナンスを行なう。大正区民にはおなじみの、渡船の修理も担当。

近年の重要な役割は、南海トラフ大地震に備えての防潮鉄扉と水門の維持管理。大阪市の湾岸部は地震が起きて2時間後に、最大5メートルの津波に襲われると予測されており、全市に約360基ある防潮鉄扉をいち早く閉めることが、市内の津波被害を防ぐためのカギとなる。職員は日々防潮鉄扉の動作を確認し、地元の水防団とも連携して訓練を行ない、不測の事態に備えている。

●大正区鶴町 2-20-47 ☎06-6552-0057
<http://www.city.osaka.lg.jp/port/>

防潮鉄扉



この扉で、大阪市民の命を守る。

高齢者向けの杖や、履きやすい室内履きなど健康福祉用品を販売。お茶のサービスも好評。

●大正区千島 3-18-9
☎06-6552-0781
<http://www.yamachuwood.com>

3 山忠木材

水運で栄えた木材関連会社が、大正区には数多い。中でも、大正12年(1923)創業の山忠木材はトップクラスの老舗だ。工務店などに木材や建築資材を提供しており、平成19年(2007)には設計事務所や工務店と「おおさか木の家づくり隊」というグループを結成。大阪の河内長野や泉南地区で伐採された、天然木材での家づくりを推進している。また、昨年サービスサロン「たるうの店きこころ」を本社隣に開店。木の香りがたがよう店内では、リフォームや福祉住環境など、住まいに関する無料相談ができる。事前申し込みで、1~2時間ほどミニサークル活動に利用することも。「障がいつながりサロン」や「親子サロン」なども定期開催。「家や暮らしのことで困ったことがあれば、お気軽にどうぞ」と、地域に密着した会社を熱心に目指す山本忠社長だった。

木材

木のあたたかさを、地元大正に伝えたい。



モノづくりに欠かせぬ「火」のプロ集団。

工業用ガスバーナー

4 飛鳥鉄工所

飛鳥鉄工所の専門は、工業用ガスバーナーやその附属設備の製作。国内外の自動車やタイヤ、ガラスのメーカー工場で、アルミニウムの溶解や鋼材の強度を増すための熱処理で用いられている。電気ヒーターよりもランニングコストが安く、重油よりも温度制御がしやすいのがガスバーナーの利点。工場によって発注サイズや形が異なるので、すべて一点モノの受注生産だ。「一個のバーナーを作るには旋盤加工、フライス加工、折り曲げ、溶接、組み立てと多数の工程が必要。うちは、その作業が一箇所です」と西林新次社長は語る。自社工場だけで難しい作業は、近隣会社にすぐ発注できるのも大正区に根ざす強みだ。

技術力に惹かれ、入社を決めた新卒生もいる。「一人前の職人になるまでに12、3年はかかりますね」という73歳の西林さん自ら、今日も現場で汗を流す。

●大正区千島 1-1-47
☎06-6554-0488



父の工場で金属加工を覚え40年前に独立。「大正区は部品調達がとても便利。仕事がしやすいですね」



船舶機械整備



船の仕事で培った技術は大正随一。

5 港南工作所

木津川近くにある港南工作所は、長年にわたり、大阪湾や日本各地を運航するフェリーたちの面倒を見てきた。得意とするのは、エンジンの修理。その技術を活かし、下水処理工場のスクルーポンプ製造や、陸上の仕事にも進出を果たした。

その一つが、自動車の解体工場や建築廃材の処理で使われる、巨大破砕機のメンテナンス。「産業廃棄物の処理プラントは危険物も扱うし、作業環境も厳しい。船の仕事をやってきたうだからこそ、対応できるんです」と古瀬竹善社長は胸を張る。実は、廃棄物処理機器の多くはドイツなどの外国製。いざ故障した時、修理部品を取り寄せると時間がかかるのが難点だ。しかし、そこは「図面さえあればたいていの部品は作れる」技術を持つ港南工作所。多くの工場が「いざという時」に相談に訪れる、頼れる兄貴分なのだ。



自動車やコンクリート材をも砕く巨大破砕機のプレート。鋼鉄でコーティングし強度を高める。

●大正区千島 1-1-49
☎06-6551-7373

6 日本電機研究所

工場の生産ラインに並び、たくさんのロボットや機械。それらがタイミングを合わせ、きちんと動くようにコントロールするのが、日本電機研究所が製作している「制御盤」の役割。機械のオン・オフだけでなく、小麦粉の工場であれば湿度や温度に合わせてブレンド方法を自動調節する、工場の生産活動における「司令塔」というわけだ。

顧客は自動車メーカーや大手食品会社。彼らが、アジアやアメリカなどの国外に作る工場にも制御盤を納入する。そこで、五代目社長の福地裕文さんが推すのが「リモートメンテナンス」。工場責任者が、遠隔地でもスマートフォンなどで工場の状況を把握でき、万が一のトラブルにも対処できるシステムを確立する。なんと、そういった最新鋭の制御盤を組み立てるには、地元主婦のパートの方々の力が欠かせないのだそう。



工場には必ずある制御盤。複雑な配線が正しく繋がれているか、念入りにチェックが行われる。

●大正区泉尾 7-1-1
☎06-6552-1471
<http://www.nikken-fa.co.jp>

制御盤

生産ラインの中核管理を担う存在。



溶接

溶接の困り事、よろず引き受けまます。

7 糸永溶接工業所

「溶接で困ったら糸永に相談しろ」と大正区の内外からSOSが舞い込む、昭和23年(1948)創業の溶接工業所。ステンレス、アルミ、鉄やチタンといった特殊合金も溶接できる。「アルゴン溶接」の腕が支持される所以だ。パチパチ火花が飛ぶ電気を使ったアーク溶接と異なり、火花が飛ばないアルゴン溶接は作業跡が残りにくい。ガスが皮膚となって製品の酸化を防ぐので、細かい部品や完成品の溶接向けの技術だ。

得意先は100社以上になり、古い顔なじみばかり。「大正区の良いところは、同じような規模の町工場がたくさんあって、自然と顔なじみになれること。私も父の跡を継いで工業会の青年部に入り、同年代の仕事仲間はずいぶん助けられました」と二代目社長の糸永敏雄さん。毎年、地元の中学校から学生が訪れ、溶接の職場体験授業も行っている。



工場の排気ガス処理設備の配管部品を溶接。板金や折り曲げ機械も自社で持ち、顧客の要望に応える。



来客を出迎える工場看板犬のシベリアンハスキー、ティナとアンナ。職人さん達にも可愛がられている。

●大正区泉尾 6-6-26
☎06-6552-1731